

主な内容

巻頭言——学長再任挨拶

特集——4.15 ウェルベース矢巾 NEW OPEN

トピックス——障がい児者医療学講座の設置に関する
岩手県との協定締結式が行われました

募金状況報告

表紙写真：岩手医科大学医療専門学校卒業生(関連記事p.6)



学長再任挨拶

学 長
祖父江 憲治



今般、二期目の岩手医科大学長を拝命することとなりました。創立以来 120 年余に亘る本学の栄光ある伝統と、「厚生済民」「医療人たる前に誠の人間たれ」の学是のもと、「地域医療」と「先進医療」の二本柱でさらなる発展を目指す大学としてまいる所存です。

昨年 9 月 21 日には、内丸旧病院から完成した岩手医科大学附属病院（矢巾新病院）へ患者さんの大搬送が無事終了し、同月 24 日から外来も開始しました。同時に、内丸旧病院は歯科医療センターを含む外来を中心とした高度外来機能病院「内丸メディカルセンター」として再スタートし、本学にとって初となる矢巾と内丸二大病院体制を開始しました。早期に両病院の機能分担を明確化し、両病院の機能を存分に発揮して、岩手県のみならず、北東北さらに東北の医療中核拠点として発展すべく努力してまいります。殊に内丸メディカルセンターの新改築は本学の器造りの喫緊の課題であり、内丸キャンパス全体の再開発と相まって、早期に方向付けをする必要があると考えております。

本学の今後に向けた最重要課題の一つは人造りです。開学以来、本学は多数の医師・歯科医師、そして平成 25 年度より薬剤師を世に輩出してまいりました。来年度からは看護学部卒業生が看護師としても活躍することになります。しかしながら岩手県、北東北、東北において、医師・歯科医師・薬剤師・看護師といった医療系人材の充足率は特段に低い現況にあります。この状況を改善すべく、本学

からより多くの医療人を育成し世に輩出するとともに、本学の特色を広くアピールし、全国から多くの卒後医療人を集め本学で高度医療人を育成する、卒後高度医育機関としての役割も果たしてまいります。

大学の規模が拡大するに伴い、効率的に運用するため学内の組織造りも重要となってきました。必要に応じた IT を始めとする最新機器の導入は当然のことですが、時代の変化に即応した柔軟な組織造りと、これを運用するための事務系職員の増員と教育も重要な課題であり、事務系職員の雇用と教育についても本学独自の取り組みが必要と考えております。

以上述べました器造り、人造り、組織造りは、第一期より手掛けてきた事ですが、第二期ではこれをより具体的実践から成果を挙げ、この過程が次の若い世代に繋ぐべき礎になればと考えております。教職員の皆様方には、今後とも絶大なるご協力をお願い申し上げますとともに、新たな大学造りに向け共に力を合わせ努力してまいりましょう。

略 歴

昭和 48 年 3 月	岩手医科大学医学部 卒業
昭和 48 年 4 月	大阪大学医学部大学院 入学
昭和 52 年 3 月	大阪大学大学院医学研究科修了医学博士
同年 5 月	大阪大学医学部神経薬理生化学教室 助手
昭和 56 年 8 月	同教室 助教授
昭和 63 年 2 月	同教室 教授
平成 23 年 3 月	大阪大学 退職
同年 4 月	大阪大学名誉教授
	岩手医科大学 副学長
	同上 医歯薬総合研究所 所長（兼任）
平成 25 年 1 月	いわて東北メディカル・メガバンク機構 機構長（兼任）
平成 28 年 4 月	岩手医科大学 学長（岩手看護短期大学 学長）

4.15 ウェルベース矢巾 NEW OPEN



4月15日、本学附属病院敷地内のコスモス館1階にオープンしたメディカルフィットネス「ウェルベース矢巾」。矢巾町営の健康増進施設で、本学や健康サービス事業を展開する民間企業等が連携・協力して運営します。本稿では、施設の概要や特徴などについて紹介します。

■ ウェルベース矢巾の概要

岩手医科大学は、矢巾町、調剤薬局チェーン大手・日本調剤(株)、健康サービス事業を展開する(株)タニタヘルスリンク、世界的なマシンメーカー・テクノジムジャパン(株)、コンサルティングを担う(株)ドリームゲートと健康増進施策事業の連携・協力に関する包括協定を締結しました。矢巾町が運営する健康増進施設「ウェルベース矢巾」を拠点として、各々が専門分野を活かし、医療と連携した、安心・安全・効果的な運動やトレーニングが楽しく続けられる健康増進施設を目指します。



◆ 特徴

ウェルベース矢巾には、運動療法や心肺機能・筋力トレーニングに適した最新のマシンが整備されました。健康増進のための一般的なトレーニングはもちろん、テクノジムジャパン(株)が提供するウェルネスバンド(写真)には、使用したマシンの種類・負荷・回数などのトレーニングデータが記録されるため、トレーニングの振り返りや目標設定などに活用できます。記録されたデータは施設内の専用機やアプリ「マイウェルネス」で自身のスマートフォン等からも確認できます。

また、将来構想として処方箋に基づく運動療法の導入が予定されています。内丸メディカルセンターを受診して健康スポーツ医から、高血圧や糖尿病などの生活習慣病の改善を目的とした運動療法処方箋の交付を受ければ、健康運動指導士の資格をもったトレーナーから最適なトレーニングメニューの提案を受けることができるようになります。



◆ 充実した設備

ランニングやバイクなどの豊富なトレーニングマシンが整備されたほか、ヨガやピラティス、太極拳など楽しいスタジオレッスンも参加し放題です。更衣室やシャワー室も完備されています。



主な設備：ランニングマシン5台、バイク6台、各種筋力トレーニングマシン、スタジオ1室、ロッカールーム男女各1室、シャワールーム男女各1室、など

◆ 利用料金

利用料金は次のとおりです。やはば健康チャレンジ事業に参加される方は、月会費がお得になります。また、本学職員には別途割引制度があります。詳細等は、以下までお問い合わせください。

主な会員種別	月会費（税別）
フリー会員 (矢巾町民以外の方)	8,000 円
チャレンジ会員 (矢巾町民でチャレンジ事業参加者)	5,000 円
ウェルネス会員 (矢巾町民でチャレンジ事業不参加)	6,000 円
学生会員 (大学生まで OK)	4,000 円

＜やはば健康チャレンジ事業＞

対 象 矢巾町在住の 20 歳以上
参加費 2,200 円（参加費は改定が生じる場合があります）

内 容

- ①活動量計を使って、歩数をカウントします
- ②測定スポット（ウェルベース矢巾等）に設置した「体組成計」「血圧計」で時々測定
- ③測定スポットで計測すると、歩数などのデータが自動で送信されポイントが貯まります
- ④計測データはタニタと連携しパソコン・スマホで確認できます
- ⑤貯まったポイントは、500 ポイントを一口として抽選でナト・カリ調味料等があたります



平 日／9:30 ～ 22:30
土日祝／9:30 ～ 20:00 〈月曜定休〉
ホームページ <https://www.wellbase-yahaba.jp/>
TEL 019-601-3733



■ 矢巾町健康増進施策事業の連携・協力に関する包括協定について

【拠点事業】 矢巾町メディカルフィットネス推進事業
【拠点施設】 ウェルベース矢巾

2月25日（火）、矢巾町役場において、矢巾町健康増進施策事業の連携・協力に関する包括協定締結式が行われました。

この協定は、本学と矢巾町と民間4社が産学官の

包括的な連携・協力のもと、矢巾町の健康増進施策に適切に対応し、地域医療の課題解決を図り、地域社会の持続的な発展に寄与することを目的として締結されました。

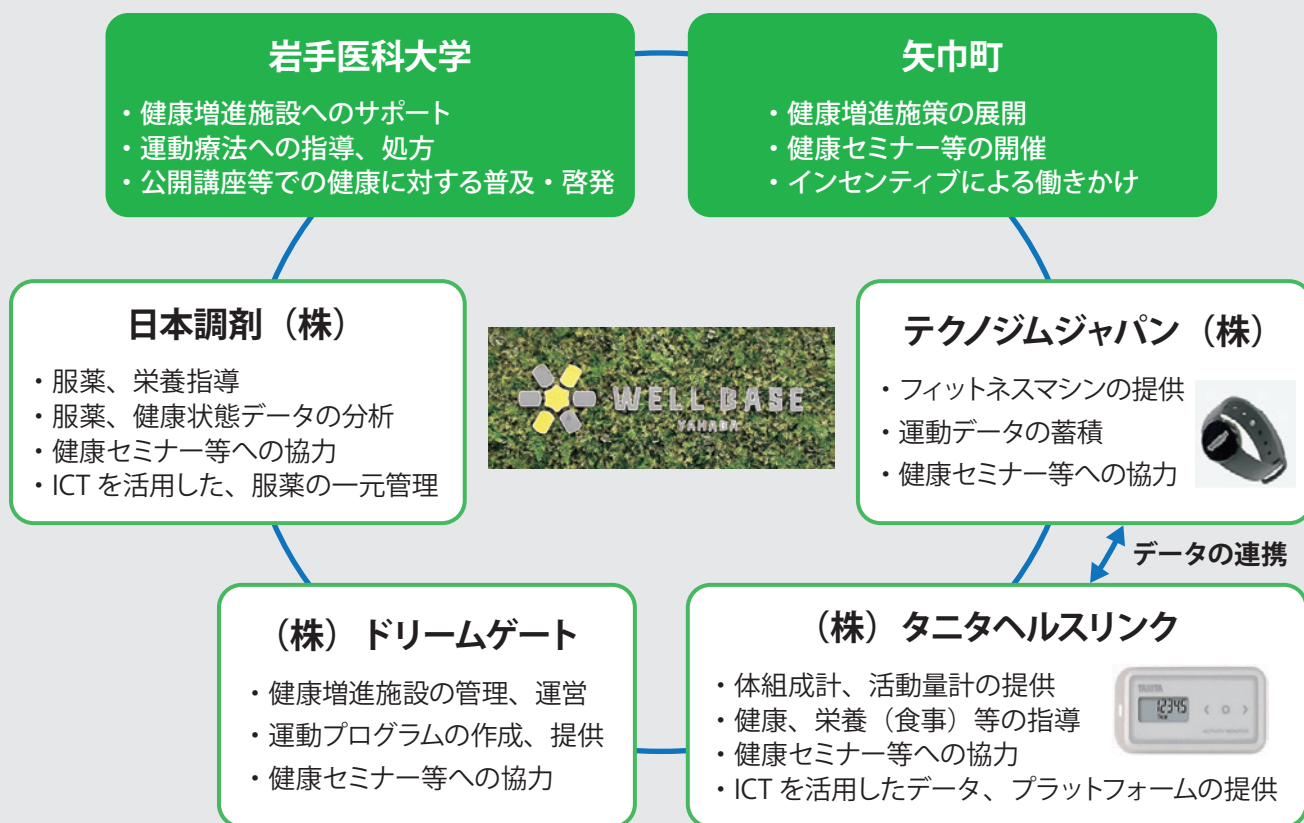
◆ 連携・協力内容

- (1) 町民の健康状態の「見える化」による健康づくりの意識啓発に関すること
- (2) 町民個人の健康状態に応じた運動や食事等の提案と、その実践・定着の支援に関すること
- (3) 町民の健康寿命の延伸に関すること
- (4) 町施設との連携や、町民の健康づくり拠点の設置に関すること
- (5) 町民の医療・福祉サービス向上のためのICTの活用に関すること
- (6) 町民の健康増進に係るプロジェクト基盤型教育と研究に関すること
- (7) その他各前号の目的を達成するために必要と認める事項

◆ 当該事業の概略

産学官が連携し、ウェルベース矢巾を活動拠点とした、健康状態の「見える化」と運動習慣等の定着を図ります。

健康増進を中心とした取組みの実施



緊急事態宣言発令にともなう臨時休業のお知らせ

ウェルベース矢巾では、新型コロナウイルス感染防止のため、以下の期間については臨時休業となります。休業期間中の申し込みについては、電話又はホームページのお問い合わせフォーム等に対応しています。

〈臨時休業期間〉 2020年4月17日（金）から5月6日（水）

〈電話受付時間〉 10:00～12:00、14:00～18:00（月曜を除く）

岩手医科大学医療専門学校で 卒業証書が授与されました

3月10日（火）、医療専門学校上ノ橋校舎において、令和元年度卒業生（歯科技工学科7名、歯科衛生学科32名）に対し、卒業証書が授与されました。

同校の卒業式は、同日歯学部4階講堂において予定されていましたが、新型コロナウイルス感染症対策のため中止となりました。今回の卒業証書授与では、各学科卒業生の代表者のみに三浦校長から卒業証書が手渡されました。

三浦校長は「本校で学んだことをベースにさらに高みを目指してほしい」とエールを送りました。また、長い歴史を締めくくる最後の卒業生となる歯科技工学科の7名に対しては、「歯科技工の魅力発信に努めるとともに、歯科医師と一丸となり国民の幸せに寄与してほしい」と期待を込めました。なお、両学科とも全員が国家試験に合格しました。



歯科技工学科



歯科衛生学科

なお、3月13日（金）、岩手県民会館において予定されていた「岩手医科大学・岩手看護短期大学合同卒業式」は、新型コロナウイルス感染症対策のため中止となりました。

令和元年度の岩手医科大学卒業生は、大学院医学研究科博士課程2名、医学研究科修士課程3名、歯学研究科博士課程5名、薬学研究科博士課程1名、薬学研究科修士課程1名、医学部110名、歯学部35名、薬学部111名、岩手看護短期大学卒業生は、専攻科地域看護学専攻20名、助産学専攻14名でした。

臨床研修修了証授与式が挙行 されました

3月16日（月）、附属病院10階大会議室において、令和元年度岩手医科大学附属病院臨床研修修了証授与式が執り行われ、2年間の臨床研修を修了した臨床研修医17名に対し、小笠原病院長より修了証書が授与されました。

修了後は、17名全員が専攻医として専門医取得を目指し、内16名が当院に在籍します。4月からは上級医として研修医を指導する側となり、当院の医師卒後臨床研修センターを強力にバックアップしてくれることが期待されます。



式辞を述べる小笠原病院長



修了証を授与される研修医



集合写真

障がい児者医療学講座の設置に関する岩手県との協定締結式が行われました



左から：小山教授、祖父江学長、小川理事長、達増岩手県知事、野原岩手県保健福祉部長、佐々木医学部長

3月31日（火）、東研究棟1階会議室において、岩手県の寄付により本学医学部に新しく開設される寄附講座・障がい児者医療学講座の設置に関する協定締結式が行われました。

当講座は障がい児者医療に携わる医師の人材育成や確保に取り組むとともに、障がい児者医療に関する普及啓発活動を実施し、県内の障がい児者を支える環境（体制）の整備や充実を図ることを目的として開設されました。設置期間は令和2年4月1日から令和5年3月31日までの3年間です。

定年退職を迎えられた教職員の皆様、長い間お疲れ様でした

本年3月31日付で定年を迎えられた皆様には、長い間岩手医科大学発展のためにご尽力いただき、厚く御礼申し上げます。皆様の今後のご健勝を祈念いたします。



3列目 塚澤 仁敏 吉田 秀樹 水本 義久 渡辺 透 田畑 光秋 藤村 秀男 関 弘昭 及川 仁 村上 龍也 行森 良一 小原 勝美

2列目 高澤 るみ子 濱田 美智子 工藤 順子 寺田 歆子 宮田 まゆみ 横澤 里美 木村 美代子 小野寺 康子 菅 聡恵 渡辺 晴子 佐々木 えり子 高橋 純子 増田 友之

1列目 高橋事務局長 佐藤全学教育推進機構長 三部薬学部長 三浦副学長 祖父江学長 小川理事長 小林副学長 佐々木医学部長 嶋森看護学部長 佐藤看護部長

理事会報告（2月定例－2月25日開催）

1. 役職者の選任について
2. 教員の人事について
3. 職員の人事について
4. 岩手看護短期大学の保健師・助産師学校指定取消及び専攻科の廃止について
5. 岩手医科大学医療専門学校の歯科技工士学校指定取消について
6. 組織規程の一部改正について
講座内准教授の職務を明示するため、組織規程を一部改正することを承認した。（施行年月日 2020年3月1日）
7. ガバナンス・コードの制定について
2019年1月の文部科学省大学設置・学校法人審議会学校法人分科会の自主行動規範に関する提言、並びに2020年4月1日施行の私

- 立学校法改正に伴い、本法人の自主行動規範となるガバナンス・コードの制定案を承認した。（施行年月日 2020年4月1日）
8. 大学院学則の一部改正について
中央教育審議会大学分科会の2040年を見据えた大学院教育のあるべき姿（審議まとめ）を踏まえ、学長を中心とした全学的マネジメント体制の明確化、権限の重複排除及び意思決定の迅速化を図り、学位授与の手続方法、研究科委員会等の運営組織について整理し、大学院学則を一部改正 することを承認した。（施行年月日 2020年4月1日）
9. 職員就業規則等の一部改正について
10. 臨床研修医等宿舎の整備について
11. 第二体育館跡地駐車場の賃貸借契約締結について

岩手医科大学募金状況報告

【創立120周年記念事業募金】

岩手医科大学創立120周年記念事業募金に対し、特段のご理解とご支援を賜りました皆様方お一人おひとりに、厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

今後とも格別なるご支援・ご協力を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。

今回は第33回目の御芳名紹介です。(令和2年1月1日～令和2年2月29日)

※御芳名及び寄付金額は、広報を希望されない方は掲載しておりません。

●法人・団体等 (13件)

<10,000,000>

医療法人社団 敬和会 (岩手県北上市)

<1,000,000>

医療法人 敬仁会 遠藤医院 (宮城県塩釜市)

株式会社 アキヤマ (岩手県二戸郡)

<300,000>

医療法人 悠隆会 (宮城県延岡市)

<100,000>

PSP株式会社 (東京都港区)

カールツァイスメディテック株式会社 (東京都千代田区)

<ご芳名のみ>

医療法人 高橋医院 (宮城県大崎市)

医療法人社団 北良会 かさい睡眠呼吸器クリニック (岩手県北上市)

株式会社 長谷川建設 (岩手県陸前高田市)

医療法人 明成会 ごとう眼科 (宮城県登米市)

医療法人社団 回天会 (静岡県浜松市)

医療法人 阿部耳鼻咽喉科医院 (秋田県横手市)

積水メディカル株式会社東北営業所 (宮城県仙台市)

●個人 (54件)

<5,000,000>

鈴木 信行 (医24)

<1,000,000>

寺元 隆 (父母)

佐原 元 (医13)

<500,000>

田村 豊一 (医21)

<100,000>

菅原 明 (父母)

佐藤 安孝 (父母)

本田 信也 (医43)

狩野 茂之 (医44)

藤井 謙 (医27)

小山 雅彦 (父母)

<30,000>

名久井 一樹 (父母)

<10,000>

土居 雅宗 (医58)

佐藤 優 (歯43)

園部 伸 (父母)

<ご芳名のみ>

後藤 康文 (役員)

吉田 俊巳 (医26)

本田 健一 (父母)

張 京浩 (父母)

荒川 明 (父母)

廣田 浜夫 (父母)

石川 浩 (医30)

戸田 和則 (父母)

齋藤 かほり (医49)

佐々木 真理 (役員)

金澤 格 (医46)

安藤 由美子 (父母)

照井 克俊 (教職員)

小林 克浩 (父母)

中嶋 正実 (父母)

本田 聡子 (父母)

金野 高明 (父母)

東梅 久子 (医37)

加藤 浩 (医39)

成瀬 隆弘 (父母)

石垣 泰 (教職員)

二井 一成 (医15)

安藤 将録 (父母)

佐々 幸江 (一般)

箱木 孝則 (歯11)

遠藤 義忠 (医14)

佐藤 一 (医68)

大澤 浩 (医31)

安田 圭太 (医68)

千葉 悟司 (父母)

小野寺 恵美 (父母)

古澤 健 (父母)

上原 兼礼 (学生)

須藤 英子 (父母)

山岸 篤 (歯15)

那須 和広 (教職員)

北川 久 (父母)

菅原 清孝 (父母)

高橋 正樹 (父母)

区 分	申込件数	寄付金額 (円)
圭 陵 会	1062	629,085,089
在 学 生 ご 父 母	904	517,450,000
役 員 ・ 名 誉 教 授	96	123,510,000
教 職 員	259	34,932,000
一 般	137	45,695,010
法 人 ・ 団 体	369	998,784,000
合 計	2,827	2,349,456,099

(令和2年2月29日現在)

《岩手医科大学報編集委員》

小川 彰	佐藤 真結美
影山 雄太	工藤 静子
松政 正俊	工藤 正樹
齋野 朝幸	及川 弘美
藤本 康之	安保 淳一
白石 博久	佐々木 忠司
成田 欣弥	畠山 正充
遊田 由希子	藤村 尚子
佐藤 仁	武藤 千恵子
小坂 未来	高橋 慶
藤澤 美穂	

編集後記

今回の特集は、コスモス館1階にオープンした矢巾町営「ウェルベース矢巾」の紹介です。本学と矢巾町と民間4社が協力し医療との連携を目指す健康増進施設となります。矢巾町民の皆様に親しまれるエリアが岩手医科大学を起点にさらに広がっていますね。

社会は大変な状況ではございますが、心身穏やかに健康に過ごしましょう。

(編集委員 工藤 正樹)

岩手医科大学報 第523号

発行年月日 令和2年4月30日

発行 学校法人岩手医科大学

編集委員長 小川 彰

編集 岩手医科大学報編集委員会

事務局 法人事務部 総務課

TEL. 019-651-5111 (内線5452、5453)

FAX. 019-907-2448

E-mail: kouhou@j.iwate-med.ac.jp

印刷 河北印刷株式会社

盛岡市本町通2-8-7

TEL. 019-623-4256

E-mail: office@kahoku-ipm.jp

スポット医学講座

呼吸器外科学講座 助教 重枝 弥

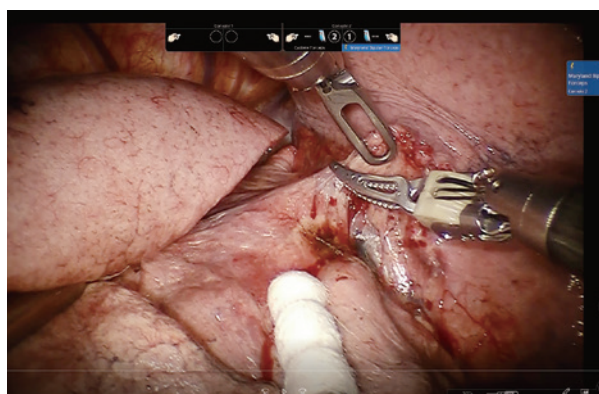


呼吸器外科におけるロボット支援手術について

日本におけるロボット支援手術は2012年に前立腺癌への保険適用を皮切りに、2016年に腎細胞癌、2018年には肺癌、縦隔腫瘍、食道癌、胃癌、直腸癌、膀胱癌、子宮体癌と一挙に適用疾患が拡大されました。当科では2019年1月に肺癌に対する第一例目のロボット支援胸腔鏡下肺葉切除術を行い、現在、肺癌、縦隔腫瘍のロボット支援手術を積み重ねています。

ロボット手術というとロボットが手術すると思われがちですが、実際は執刀医が患者さんから離れた操作ユニットに座り、画面を通して数か所の小さい切開創から患者さんに挿入された機器を操作する手術になります。ただし肺の手術は助手に委ねる操作も多く執刀医と助手の連携が非常に大切です。

ロボット支援手術の利点は、鮮明かつ拡大された映像と手ぶれ防止機能により正確で繊細な操作を行えるだけでなく、鉗子の関節が多いため時に手を動かすより楽に操作できることです。創部が小さいため痛みが少ないのですが、これらの特徴のおかげで、大きな切開創の手術の感覚で小さい創部からの繊細な操作が可能になりました。もちろん万能な装置ではありませんので、まず手術の際はもうひとつの低侵襲手術である胸腔鏡下手術とどちらが適切な術式であるかを慎重に判断し、手術中は緊急時の手順を常に確認して手術を行っています。



手術中の実際の画像。執刀医はこの画を3Dで見ることができます。

2020年4月から肺癌に対する保険適用は肺葉切除に加え切除範囲の小さい区域切除にも拡大されました。また、今後新たな手術支援ロボットも登場するといわれており、ロボット支援手術の果たす役割は大きくなると考えられます。当科でも安全で侵襲の小さい手術を最先端の技術で皆様に提供することができるよう、今後も邁進してまいります。



透明なビニールがかかっている器機が患者さん側のユニット（パシエントカート：ダビンチサージカルシステム インテュイティブ社）。写真右が筆者。



操作ユニット（サージョンコンソール）。執刀医はここで手術を行います（写真は出口准教授）。